

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	鹿児島純心大学
設置者名	学校法人 鹿児島純心女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
人間教育学部	教育・心理学科	夜・通信	4	0	10	14	13	
看護栄養学部	看護学科	夜・通信		0	9	13	13	
	健康栄養学科	夜・通信			9	13	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/cat-topics/9525/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	鹿児島純心大学
設置者名	学校法人 鹿児島純心女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	R3.4.1 ~ R7.3.31	財務
非常勤	弁護士	R3.4.1 ~ R7.3.31	法務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鹿児島純心大学
設置者名	学校法人 鹿児島純心女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

○授業科目は、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)について、「令和6年度シラバスについて」に示すとおり、以下の日程で作成し公表している。

科目毎に大学 HP から検索して閲覧が可能。

	作成過程	時 期 (期 間)
1	講義確認	11月 15 日 (水) ～11月 24 日 (金)
2	シラバス編集、提出	11 月 29 日 (水) ～1 月 15 日 (月)
3	第三者チェック①	1 月 17 日 (水) ～1 月 31 日 (水)
4	シラバス修正①	2 月 1 日 (木) ～2 月 7 日 (水)
5	第三者チェック②	2 月 9 日 (金) ～2 月 16 日 (金)
6	シラバス修正②	2 月 19 日 (月) ～2 月 27 日 (火)
7	シラバスの確定処理	2 月 28 日 (水) ～3 月 5 日 (火)
8	シラバス公開	3 月 18 日 (月)

授業計画書の公表方法	https://k-jundai-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
------------	---

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

○単位修得の認定方法については、「単位認定規程」及び学部・学科毎の「履修規程」により、単位修得の認定を行っている。

・成績評価は、科目担当者において筆記試験の他、レポート・発表、実技の成果、平素の成績などにより行われ、評価方法はシラバスに明示されている。科目の評価は 100 点満点とし、成績 60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。評価の明示は、以下のとおり。

100 点～90 点：秀

89 点～80 点：優

79 点～70 点：良

69 点～60 点：可

59 点以下：不可 (不合格)

3. 成績評価において、GPA 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

1) G P Aについて

履修科目ごとの成績(得点)に対して、G P (グレード・ポイント)を付与し、その単位当たりの平均値をG P A (グレード・ポイント・アベレージ)とします。

成績がより正確に評価ができるf-G P A (f u n c t i o n a l-G P A)を令和4年度後期から用いています。

成績評価	得点	G P
秀	90 ~ 100	3.5 ~ 4.5
優	80 ~ 89	2.5 ~ 3.4
良	70 ~ 79	1.5 ~ 2.4
可(本試験合格)	60 ~ 69	0.5 ~ 1.4
可(再試験合格)	合	0.5
不可(欠席・失格)	0 ~ 59	0

2) G P Aの目的と利用について

① 学 生

自分自身のG P Aを知ることにより学修効果を的確に把握して、卒業・希望する資格・免許状の取得のため、計画的な履修を組むことができます。

② 教 員

学生のG P Aを知ることにより適切な成績評価、教育の改善および学習指導の充実を図ることができます。

③ そ の 他

公平・公正なG P Aを各種奨学生の推薦、進学・就職に関わる推薦および江角賞・学長賞などの褒賞の選考に利用することができます。

3) G P Aの算出について

① 算出方法について

G P Aの算出方法は、次のとおりです。また、算出された数値の小数点第3位以下は四捨五入して第2位までとします。

$G P = (\text{成績評価} - 55) / 10$ (ただし、 $G P < 0.5$ は $G P = 0.0$)

$G P A = (\text{履修科目の} G P \times \text{単位数の総和}) \div \text{履修科目の総単位数}$ 】

◆算出例

$$\frac{2.8 \times 2 + 4.0 \times 2 + 2.2 \times 1 + 3.5 \times 2 + 0 \times 1 + 1.0 \times 2 + 0 \times 2}{2 + 2 + 1 + 2 + 1 + 2 + 2} = \frac{24.8}{12} \Rightarrow 2.07$$

番号	科 目 名	単位数	成績	評価	G P	G P × 単位数
①	純心講座	2	83	優	2.8	5.6
②	キリスト教概論 I	2	95	秀	4.0	8.0
③	健康スポーツ I	1	77	良	2.2	2.2
④	日本国憲法	2	90	秀	3.5	7.0
⑤	人間・教養・文化	1	40	不可	0	0
⑥	社会福祉概論	2	65	可	1.0	2.0
⑦	フランス文化論 I	2	—	失格	0	0
計		12				24.8

(注) ⑤単位認定試験の結果が 40 点のため成績評価「不可」で、G P 「0」 ⑦履修取り消しを行わずに受講しなかったため、成績評価「失格」で、G P 「0」 ② 算出期間について a. 学期 学期（前期・後期）ごとの履修科目で算出します。通年科目は、終了した学期に算入します。 b. 学年 1 年次、2 年次、3 年次、4 年次の各年次の履修科目で算出します。 c. 通算 入学時から対象となる全ての科目で算出します。 4) 履修取り消しと G P A について 履修取り消しの手続きを行わず履修を放棄した場合は、成績評価が「失格」（算出例⑦参照）となり、「履修科目の総単位数」に加算されますので、結果的に G P A が下がります。 そこで、履修放棄による G P A 値の低下を防ぐために「履修登録変更期間」または「履修取消期間」に履修取り消しを行うことができます。 5) G P A の通知について G P A の対象科目は、履修した全ての卒業要件科目とします。ただし、入学前の既修得単位、大学以外の教育施設等の学修による単位認定科目など、成績評価が「認定」となる科目は除きます。 G P A は「教務情報システム（C a m p u s P l a n）」の「学生カルテ」または学生支援課で配付する「学業成績・単位修得通知書」で確認することができます。 6) G P A の活用について ① 教育・心理学科 実習参加要件の参考資料として活用します。 卒業時の学長賞・江角賞候補の選抜、海外日本語教育インターン（日本語教師アシスタント）の選抜に活用します。 ② 看護学科 3 年次の実習グループの平準化に活用します。 ③ 健康栄養学科 実習時の参考資料および 3 年次の国家試験対策のグループ分けに活用します。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/cat-topics/9525/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 （卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） ○卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、学生便覧及び大学 HP 等で公表。 ○卒業は、学則第 43 条及び学部履修規程（人間教育学部履修規程第 9 条、看護栄養学部規程看護学科第 7 条及び健康栄養学科第 7 条に定める（卒業要件）を満たし、各学科・学部の卒業判定により認定される。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鹿児島純心大学
設置者名	学校法人 鹿児島純心女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/
収支計算書又は損益計算書	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/
財産目録	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/
事業報告書	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/
監事による監査報告(書)	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/jihee/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/jihee/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間教育学部 教育・心理学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/)
(概要) 教育の目的 本学は、教育理念と建学の精神に基づき、豊かな人間性に裏打ちされた高い知性と専門性をそなえた人の育成、すなわち「いのちを育む知性と愛」を一人ひとりの学生のうちに育み、以下の(1)～(3)の人間像を目指すことを教育目的とする。 (1) 優しさと清らかさ、謙虚さと豊かな教養を持った人 (2) 自ら考え、社会において責任をもって行動できる自立した人 (3) 地球市民として、社会に貢献できる広い視野を持った人 そして、このような教育目的を日々実践するために、「マリアさまいやなことは私がよろこんで」という江角ヤス先生のことばを学園標語としている。 教育の特色 本学は、高等教育機関としての水準の向上に努めつつ、多様な職業に対応できる人材の育成を図るとともに、高度な専門的職業人の育成を目指す。そして、そうした専門教育の基盤となる総合的教養教育を強化し、豊かな人間性の育成に努める。 このため、カリキュラムの基本は、豊かな人間性を培うための「基礎教育科目」と、自他の真の幸せのために与えられた能力を十分に伸ばし、社会に貢献できる高いレベルの「専門教育科目」の二つの柱がある。 また、地域の生涯学習の拠点として、教育と研究の一体化を図り、産学連携、国際交流、地域貢献の拡充に努める。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/)
(概要) 1. 態度・志向性 高い倫理観のもと、人に誠実に接することができ、他者と協働しながらチームとして問題を解決することができる。 2. 知識・理解 教育学、保育学、心理学、言語・文化等に関する専門的知識及び技能を身につけ、学校教育を内外から支える力を有する。 3. 汎用的技能 高度なコミュニケーション力や多角的視野からの分析力・判断力を有し、多様性を受容する姿勢のもと、円滑な人間関係を形成し発展させることができる。 4. 総合的な学習経験と創造的思考力 実習や地域と連携した活動を通して磨かれた実践力を、教育の場や社会の場で活かし、柔軟な姿勢で課題に対応することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/)
(概要) 教育・心理学科は、学科共通の「基礎教育科目」と「専門教育科目」をカリキュラムの大きな柱としている。 「専門教育科目」は、「学科共通専門教育科目」および専攻・コースごとに定められた「専門教育科目」に分けられ、専攻やコースにより異なる編成でそれぞれの専門性を高め、また同時に「チーム学校」という学科コンセプトの下、教育と心理の領域を有機的に連携させ、学校教育を内外から支える人材の育成を目指した教育課程を編成する。 1. 基礎教育では、初年次教育として大学における学びの姿勢や方法を身につけるとと

もに、豊かな人間性と幅広い教養を涵養し、よりよく生きるための力の基盤をつくる教育課程編成とする。 2. 1年次から4年次まで少人数教育を基本に、学年を追うごとに基礎的内容から発展的内容へと学びを深めていけるように、段階的かつ体系的に教育課程を編成する。 3. 専門教育の基盤をつくとともに、幅広い領域の科目履修を通して多角的視野や統合的判断力を培うことを目的として、専門教育に「学科共通専門教育科目」を設ける。 4. 専門教育では、それぞれの専門に応じて教育、保育、心理、言語・文化科目をバランス良く配置し、学修することで、専門的知識と高度な技能を身につけることができるようにする。 5. 各専攻及びコースの専門性を充実させる一方で、教育と心理の領域を有機的に連携させ、学校教育を内外から支える知識・技術の修得ができる教育課程編成を行う。 6. 授業内外で領域と連携した体験型学習を積極的に取り入れ、知識・技能の向上はもとより、コミュニケーション能力、柔軟性、社会性、問題解決力等の向上・育成を図る。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/)
(概要) 1. 人間と教育に興味・関心を持ち、学ぶ意欲のある人 2. 多角的な視点から物事を考え、その考えを表現する力や相手を理解しようとする姿勢をもっている人 3. 向上心や探求心を持ち、主体的に他者と協調して様々な活動を行う意欲のある人 4. 地域・社会活動に興味があり、積極的に取り組む意欲のある人

学部等名 看護栄養学部 看護学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/)
(概要) 教育の目的 本学は、教育理念と建学の精神に基づき、豊かな人間性に裏打ちされた高い知性と専門性をそなえた人の育成、すなわち「いのちを育む知性と愛」を一人ひとりの学生のうちに育み、以下の(1)～(3)の人間像を目指すことを教育目的とする。 (1) 優しさと清らかさ、謙虚さと豊かな教養を持った人 (2) 自ら考え、社会において責任をもって行動できる自立した人 (3) 地球市民として、社会に貢献できる広い視野を持った人 そして、このような教育目的を日々実践するために、「マリアさまいやかなことは私がよろこんで」という江角ヤス先生のことばを学園標語としている。 教育の特色 本学は、高等教育機関としての水準の向上に努めつつ、多様な職業に対応できる人材の育成を図るとともに、高度な専門的職業人の育成を目指す。そして、そうした専門教育の基盤となる総合的教養教育を強化し、豊かな人間性の育成に努める。 このため、カリキュラムの基本は、豊かな人間性を培うための「基礎教育科目」と、自他の真の幸せのために与えられた能力を十分に伸ばし、社会に貢献できる高いレベルの「専門教育科目」の二つの柱がある。 また、地域の生涯学習の拠点として、教育と研究の一体化を図り、産学連携、国際交流、地域貢献の拡充に努める。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/)

(概要) 本学科では学則で定める卒業に必要な単位数を取得することが学士号授与の要件となる。また、卒業までに次の4つの力を有することを重視する。 1. 知識・理解 対象を全人的にとらえる基本的能力：人間を様々な側面を持つ存在として健康の視点から包括的にとらえるための基本となる能力 2. 汎用的技能 看護者としての実践力：人々の健康課題に対応でき、科学的根拠に基づいた看護を実践しうる能力 3. 態度・志向性 豊かな人間力：人間の尊厳や倫理の意味を理解した上で、あらゆる対象者を理解し援助関係を形成する能力 多職種と連携する力：保健・医療・福祉・教育の領域において多職種と連携、協働しながら看護を発展、充実させる能力 4. 総合的な学習経験と創造的思考力 専門性を発展させる力：自己啓発能力と研究的態度を身につけ、社会の動向に関心をもち、看護の専門性を発展させる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/)
(概要) 1. ディプロマ・ポリシーの達成のために、基礎教育科目、専門教育科目の2つの系列からカリキュラムを構成する。 2. 基礎教育科目では、個人としての成長や生涯学習の基礎づくりとなることを目指すと共に、カトリックの人間観に基づいて看護学を学ぶ基礎づくり、情報を活用しながら表現力を高めるための基礎的力を養う。 3. 専門教育科目は、「看護の基盤となる領域」「看護の軸となる領域」「実践力を発揮する領域」「看護の発展となる領域」から成り、領域間の関連性や順序性を考慮して構成している。 ①「看護の基盤となる領域」で看護学の基礎となる考え方や態度を育成し、「看護の軸となる領域」において「看護の基盤となる領域」での学びも生かしながら看護の軸を形成していく。 ②「実践力を発揮する領域」では、「看護の基盤となる領域」及び「看護の軸となる領域」での学びを統合し、看護実践力を高めるための素地を養う。 ③「看護の発展となる領域」では、看護学の基礎を踏まえた上で、看護師、保健師、助産師、養護教諭として、より発展的な学びができるよう科目を配置している。 4. 看護の実践力を養うため、講義、演習、実習等を適切に組み合わせ、主体的・能動的な学びや協調性を養うことができるよう小グループでの演習などを取り入れた学習の機会を提供する。 5. 各科目では、科目の目標に応じて設定された評価方法を事前に提示した上で、その評価方法に基づき、知識・態度・技術等を総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/)
(概要) 本学科では次のような人を求める。 1. 自ら学ぶ意欲のある人 2. 看護学を学ぶのに必要な基礎学力を有する人 3. 人に対する関心があり、人と人とのかかわりを大切にできる人 4. 人間の尊厳を考えることができる人 5. 社会の出来事に対し関心を寄せ、自分の考えが持てる人
学部等名 看護栄養学部 健康栄養学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/） （概要） 教育の目的 本学は、教育理念と建学の精神に基づき、豊かな人間性に裏打ちされた高い知性と専門性をそなえた人の育成、すなわち「いのちを育む知性と愛」を一人ひとりの学生のうちに育み、以下の（１）～（３）の人間像を目指すことを教育目的とする。 （１）優しさと清らかさ、謙虚さと豊かな教養を持った人 （２）自ら考え、社会において責任をもって行動できる自立した人 （３）地球市民として、社会に貢献できる広い視野を持った人 そして、このような教育目的を日々実践するために、「マリアさまいやなことは私がよろこんで」という江角ヤス先生のことを学園標語としている。 教育の特色 本学は、高等教育機関としての水準の向上に努めつつ、多様な職業に対応できる人材の育成を図るとともに、高度な専門的職業人の育成を目指す。そして、そうした専門教育の基盤となる総合的教養教育を強化し、豊かな人間性の育成に努める。 このため、カリキュラムの基本は、豊かな人間性を培うための「基礎教育科目」と、自他の真の幸せのために与えられた能力を十分に伸ばし、社会に貢献できる高いレベルの「専門教育科目」の二つの柱がある。 また、地域の生涯学習の拠点として、教育と研究の一体化を図り、産学連携、国際交流、地域貢献の拡充に努める。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/） （概要） １．知識・理解 健康の保持・増進、疾病の予防・治療に必要な栄養に関する基礎的な知識を修得している人々を取り巻く環境に関心を持ち、社会の中における自らの専門分野の意義と位置づけを理解している ２．汎用的技能 専門的な知識を活かし、食と健康に関する課題を科学的・論理的に把握・分析し、人々を健康に導く方向性を示すことができる コミュニケーションスキルを身につけ、他職種と協調性を持って課題の解決に向けた連携を図ることができる ３．態度・志向性 豊かな人間性と倫理観を身につけ、積極的に物事に取り組む姿勢がある 食と健康の専門家として、自らの果たす役割を自覚し、人々の QOL 向上に貢献する意欲がある ４．総合的な学習経験と創造的思考力 地域社会において、これまでに獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、個人や集団の課題に柔軟性を持って対応できる 常に新しい知識・技術を学ぶ意志を持ち、専門家として主体的に考え、自らの行動に責任をもって社会のために貢献できる
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/） （概要） １．初年次教育として、本学科に必要な基礎化学、生命科学、生物有機化学の科目を配置している。 ２．専門教育は、基礎科目から専門科目へ学年を追って体系的に配置されている。専門教育科目は、講義を先に、実験・実習をその後に配置して、理論を基にして実践力を養成する。 ３．栄養教諭、家庭科教諭の受験資格およびフードサイエンティストの資格取得に必要な科目は、学科の学びの中で修得できる。

4. 教養科目に関しては、4年間をとおして教養科目を選択必修として卒業までの間に修得できるように配置している。

5. 学外実習として、臨地実習やインターンシップおよび海外研修をとおして、管理栄養士業務の実際を学び、実践力やコミュニケーション力を養う。

6. 基礎教育科目として、「純心講座」「キリスト教概論」および「人間の探求」を必須科目としてカトリック精神を伝え、豊かな人間性を育むための教育の一環としている。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/policy/>)

(概要)

1. 知的好奇心に満ち溢れ、常に向上心をもって、食と健康に関する知識に興味・関心がある人

2. 栄養・医療・福祉に関する事柄を科学的・論理的に学ぶための基礎学力を備えた人

3. 多様な人々と協働できる基本的なコミュニケーション力のある人

4. 学んだ知識や技能をもとに、地域社会に貢献する意欲のある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/disclosure/info-education/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
人間教育学部	－	14 人	6 人	3 人	2 人	0 人	25 人
看護栄養学部	－	9 人	9 人	8 人	6 人	7 人	39 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		人					人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/staff/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間教育学部	85 人	51 人	60.0%	340 人	192 人	56.5%	—人	3 人
看護栄養学部	85 人	93 人	109.4%	356 人	392 人	110.1%	8 人	6 人
合計	170 人	144 人	84.7%	696 人	584 人	83.9%	8 人	9 人
（備考）人間教育学部の編入学者数は、欠員の範囲。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際人間学部	3 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (66.7%)	1 人 (33.3%)
人間教育学部	52 人 (100%)	4 人 (7.7%)	43 人 (82.7%)	5 人 (9.6%)
看護栄養学部	87 人 (100%)	3 人 (3.4%)	82 人 (94.3%)	2 人 (2.3%)
合計	142 人 (100%)	7 人 (4.9%)	127 人 (89.5%)	8 人 (5.6%)
（主な進学先・就職先）（任意記載事項）				
（備考）				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）【様式第2号の3（3）より再掲】

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

○授業科目は、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)について、「令和6年度シラバスについて」に示すとおり、以下の日程で作成し公表している。

科目毎に大学HPから検索して閲覧が可能。

	作成過程	時 期（期 間）
1	講義確認	11月15日（水）～11月24日（金）
2	シラバス編集、提出	11月29日（水）～1月15日（月）
3	第三者チェック①	1月17日（水）～1月31日（水）
4	シラバス修正①	2月1日（木）～2月7日（水）
5	第三者チェック②	2月9日（金）～2月16日（金）
6	シラバス修正②	2月19日（月）～2月27日（火）
7	シラバスの確定処理	2月28日（水）～3月5日（火）
8	シラバス公開	3月18日（月）

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）【様式第2号の3（3）より再掲】

○単位修得の認定方法については、「単位認定規程」及び学部・学科毎の「履修規程」により、単位修得の認定を行っている。

・成績評価は、科目担当者において筆記試験の他、レポート・発表、実技の成果、平素の成績などにより行われ、評価方法はシラバスに明示されている。科目の評価は100点満点とし、成績60点以上を合格、60点未満を不合格とする。評価の明示は、以下のとおり。

100点～90点：秀

89点～80点：優

79点～70点：良

69点～60点：可

59点以下：不可（不合格）

○卒業又は終了の認定にあたっては、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、学生便覧及び大学 HP 等で公表している。

○卒業は、学則第 43 条及び学部履修規程（人間教育学部履修規程第 9 条、看護栄養学部規程看護学科第 7 条及び健康栄養学科第 7 条に定める（卒業要件）を満たし、各学科・学部の卒業判定により認定される。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間教育学部	教育・心理学科	124 単位	有・無	49 単位
看護栄養学部	看護学科	128 単位	有・無	49 単位
	健康栄養学科	124 単位	有・無	49 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/about/facility/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人間教育 学部	教育・心理学科	600,000 円	200,000 円	445,000 円	実験実習寮、教育充実費、 図書館費
看護栄養 学部	看護学科	800,000 円	350,000 円	570,000 円	実験実習寮、教育充実費、 図書館費
	健康栄養学科	600,000 円	300,000 円	495,000 円	実験実習寮、教育充実費、 図書館費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 修学のための経済的支援として、大学独自の奨学金制度及び授業料減免制度を設けている。 【鹿児島純心大学成績優秀者奨学金】 対象は成績、人物共に優秀な者。規定に定める採用者数は毎年第 1 学年次生若干名で、入学試験の結果に基づき選考の上、決定する。奨学金は、試験区分等により 10 万円から 30 万円を給付する。 【鹿児島純心大学白百合奨学金】 対象は修学の熱意はありながら、経済的理由により修学が著しく困難と認められた者。規程に定める採用者数は、毎年 16 名以内で、必要書類等により選考し、決定する。奨学金は、月額 2 万円とし、前期分と後期分の 2 回に分けてそれぞれ 12 万円支給する。ただし、更新については、必要書類等の選考により決定し、原則として 1 回限りとする。 【鹿児島純心大学外国人留学生特別奨学金】 対象は入学を許可された外国人留学生で、人物・学業ともに優れ、経済的理由により修学に困難があると認められる者。必要書類により選考、決定し、月額 3 万円を給付する。奨学生の期間は採用年度限りとする。ただし、次年度以降も申請することができる。 【鹿児島純心大学私費外国人留学生授業料等減免】 対象は大学の正規課程に在籍する私費外国人留学生で、経済的理由により修学が著しく困難であると認められた者。必要書類により選考、決定する。授業料等の減免額は、入学金の全額と授業料の 50%とする。 【学校法人鹿児島純心女子学園 兄弟姉妹在籍による授業料給付】 対象は、当学園の設置する大学院・大学各学部・短期大学各学科・高等学校・中学校に同時に在籍する兄弟姉妹が 3 名となった場合の最年少者 1 名で、必要書類による申請に基づいて決定し、給付する。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 進路支援委員会・担任または研究室教員・進路支援課は、学部生及び大学院生に対して、一人ひとりが能力、適性、意欲などを発揮できる職業や進学先などを選択し、決定できるように適切な資料や情報の提供、個別面談、応募書類作成時の助言、面接練習、ハローワーク就職支援ナビゲーター（週 2 回来学）との面談等の各種支援を行っている。 また、学部では、進路支援対策計画に基づき、マナー講座、メイク講座、グループディッション対策講座等の「進路ガイダンス」を推進し、適宜、就職・進学相談に応じて学生の進路活動が円滑に行われるように積極的に対応している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

障害のある入学希望者や学生から受験や修学における支援について要請がだされた場合は「障害のある学生への支援規程」に則り個別の支援方策などについて検討する。

保健室では、健康管理に役立つ情報を提供するとともに、心身の健康に関する相談に対応する。また、学生相談室では、様々な悩みや不安に関する相談（メールによる相談可）に学生相談員が対応し、必要に応じて専門家を紹介する。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/disclosure/info-education/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F146310111671
学校名（〇〇大学 等）	鹿児島純心大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人鹿児島純心女子学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		82人	82人	89人
内 訳	第Ⅰ区分	45人	46人	
	第Ⅱ区分	25人	19人	
	第Ⅲ区分	12人	17人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				90人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。